

オオルリシジミを守る③

農家の取り組み



柳沢喜久江さん (中八重原)

草刈りはクララを残して刈り取ります

クララを保護するように説明を受けたのはため池や水路周辺での草刈りの時でしたね。ピーバーで草刈りをするときはクララの周辺は最後に手刈りでいきます。

北御牧村にそんな貴重なチョウがいるなら保護しようと地域全体に広がりました。ほとんどの人がクララを知っていますよ。今では、畑に種をまき、クララを増やしています。天敵のメイガの幼虫も取り除きますよ。」と突然の取材に答えてくれました。

クララだけを除いて草刈りをするのは、大変な注意と労力が必要です。この地区の多くの皆さんは、草刈りを通じて地域ぐるみでクララの育成と保護に取り組んでいます。



メイガの巣の駆除を行う柳沢さん

オオルリシジミをはじめ現在の自然環境など話題はつきず、座談会は2時間に及んだ。



井出 チョウの飼いや保護活動の勉強を熱心に聞いている姿を見て、この地域の熱心さには心が打たれました。
武井 不審者がいたらチラシを配って保護の協力をお願いします。結構効果が出ています。
井出 かなり定着していますよ。うちの従業員が休日に付近を歩いていた時に、「チョウを盗みに来たのか」と怒られた笑い話があるくらい熱心さが分かりました。現在では守衛さんが会社の敷地内外を見張っています。一番の天敵は「人間」かもしれません。
地域に根ざしている会社として、今後ともクララの増殖やチョウの保護にも協力していきたいです。

井出 佐久では大雨が降ると水があふれて田んぼから鯉が逃げ出してくるんですね。雨の日は大喜びだよ。鮒やドジョウなども食べました。
教育長 私はタニシ、シジミ貝を田んぼで探して食べました。千曲川へ毎日魚を捕まえにも行きました。だけど、今は川が汚れてしまつて魚が少なくなつてしまつたね。
千曲川の自然を回復させるためにも皆で努力しなければいけないですね。
一度破壊した自然はなかなか元には戻らない
井出 いったん自然を破壊してしまうと元に戻るには時間がかかります。最近ではカブトムシも少なくなつたし、子ども達も山へ捕まえに行くのではなく、お店で買う時代になつてしまつて・・・。
武井 危険を冒してまでとは言わないけど、もっと子ども達に

自然を守るためには自然に多くふれる

オオルリシジミについては、会の皆さんの取り組みの力強さ、協力する人たちの輪が広がっていることを感じます。しかも会だけでなく地域の皆さんが自分達で守つていこうと一体となつて取り組んでいることは素晴らしいですね。一番大切なのは「自主性」。今後とも多くの人たちに輪が広がることを願っています。

と増やして欲しいですね。
一同 そうですね。自然を守り伝えるには子ども達に自然に触れてもらうことが一番大切で、夏休みには親子でいっぱい遊んで欲しいですね。
司会 いろいろな話をいただきありがとうございます。



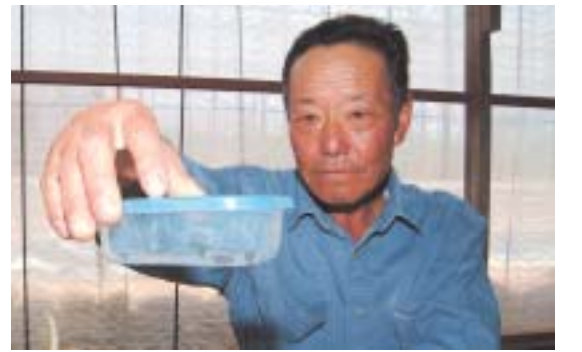
遊ぶときにはいつも自然があった

司会 皆さんは、子どものころどんな自然体験をされたのでしょうか。
武井 私達が子供の頃は、今の時代と違って自然と遊ぶしかなかった。農業の手伝いのほかは友達と外で遊ぶしかなかったね。
井出 うちも養蚕をしていたか

ら、畳をどかして床に蚕と一緒に寝ていたこともあったな。
教育長 昆虫などを見せ合ひっこしながら友達と遊びましたね。
司会 特に記憶に残る思い出はありますか？
武井 今ではなかなか見られないゲンゴロウを塩で炒つて食べたことがありますよ。イナゴやドジョウもヌマエビも。ヌマエビは特においしかったね。



ミヨタ株式会社の敷地内には多くのクララが育ち始めている。草刈りの時にクララを刈らないために目印として竹が多く指してある。



武井さんが育てあげたさなぎ。「来年も頑張る」と意欲をみせる。

司会 水、空気、土などの自然を総合的に取り戻していくのは大変だけど大事なことです。汚れた川も下水道整備で徐々に回復してきましたが、まだまだ年数がかかります。
井出 いったん自然を破壊してしまうと元に戻るには時間がかかります。最近ではカブトムシも少なくなつたし、子ども達も山へ捕まえに行くのではなく、お店で買う時代になつてしまつて・・・。
武井 危険を冒してまでとは言わないけど、もっと子ども達に

自然を体験して欲しいと思いますね。
教育長 PTA活動でも自然とふれあいを持って行う動きやイベントが多く行われるようになっていきます。
井出 私は何十年かぶりに北御牧でザリガニを見ました。とても、ビックリしましたね。
武井 ドジョウやタニシも結構いますよ。
教育長 本当に市内には、自然の宝庫がまだまだたくさんあるんですね。

自然の一番の天敵は人間かもしれない

司会 皆さんの今後の取り組み方針をお聞かせください。
武井 守る会や地域の取り組みでやつとこまできました。できれば食草のクララを多くの市民の方に育てて欲しいと思います。
また、天敵であるメイガの駆除などをボランティア活動の一つとして入れて欲しいですね。



※ウスベニオオノメイガクララの花穂をほとんど食べつくしてしまう蛾の一種。アメリシロのような巣をつくる。殺虫剤をかけられないため、人力でしか駆除できない。



オオルリシジミを守る会ではこのようなチラシを配り市外の人達へ呼びかけてもいる。